長尺PDF変換プログラム　PDF3RSL

Kernel Computer System
カーネルコンピュータシステム株式会社

本社：パッケージ販売部
〒221-0056
横浜市神奈川区金港町 6-3 横浜金港町ビル
TEL：045-442-0500　FAX：045-442-0501
URL：https://www.kernelcomputer.co.jp

◆特徴

・Windows プリンタドライバである弊社製品「KDdriver_long for Windows」を経由することによって高品質な変換結果（モノクロ、カラー選択可能）を得ることができます。出力するラスターフォーマット形式にカラー機能がないものは、入力がカラーデータでもモノクロになります。また、任意の解像度に変換することもできます。
・コマンドライン形式(DOS 操作)、GUI 形式(画面操作)の双方をサポートしたアプリケーションになっています。1 つの製品で両形式使用することができます。システムへの組み込みや、標準機能としてバッチファイルを利用したフォルダ単位の一括変換が可能です。
・オプション製品と組み合わせることによって、指定フォルダにデータを送るだけであらかじめ設定された PDF から各種サポートフォーマットへ自動的に変換を行う自動監視付き変換等が可能です。
・PDF データの用紙サイズの反映、セキュリティ解除が可能です。
・Adobe Acrobat ライセンスが不要です。

◆概要

PDF を PDF3RSL の PDF 印刷機能または任意の PDF ビューアを使用して、ラスター(イメージ)データへ変換します。
出力フォーマットの詳細につきましては、7 ページをご覧ください。

【入力対応データ】

データ	ファイル種類(拡張子)
PDF データ	pdf

※上記以外のファイルについては正式に対応していません。

◆注意事項

・アプリケーションの印刷機能を利用してファイルを作成するため、変換するファイルのアプリケーションが必要になります。
・印刷に使用するアプリケーションで正常に印刷できる必要があります。アプリケーションで対応していないバージョンのデータ等は正常に印刷できない場合があります。
・WindowsOS の種類によって別製品になります。WindowsOS ごとにプログラムが異なるため、ユーザーがインストールする環境の OS に合った製品を購入していただく必要があります。
・64 ビット環境で 32 ビットアプリケーションとして動作します。変換に使用するアプリケーションも 32 ビットアプリケーションである必要があります。

◆製品構成

製品名	概要	定価 (税抜き)
PDF3RSL	PDF データをラスター(イメージ)データへ変換します。 以下の機能があります。 ・用紙サイズを自動認識して元の用紙サイズでラスターファイルに変換 ・用紙の回転 ・セキュリティの解除 独自開発したPDF 変換処理(Adobe Acrobat ライセンス不要)を搭載した製品です。	40 万円

◆動作環境

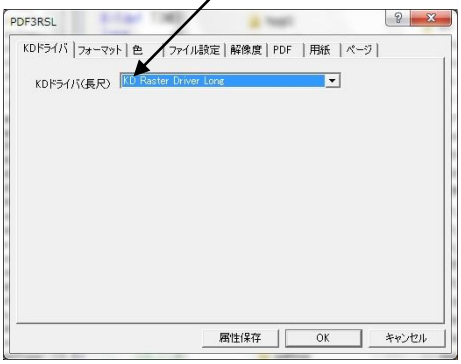
対応 OS：
・Windows 7
・Windows 8
・Windows 8.1
・Windows 10
・Windows 11
・Windows Server 2008
・Windows Server 2008 R2
・Windows Server 2012
・Windows Server 2012 R2
・Windows Server 2016
・Windows Server 2019
・Windows Server 2022
・Windows Server 2025

※PDF ファイルの変換を行うアプリケーションの動作環境に依存します。

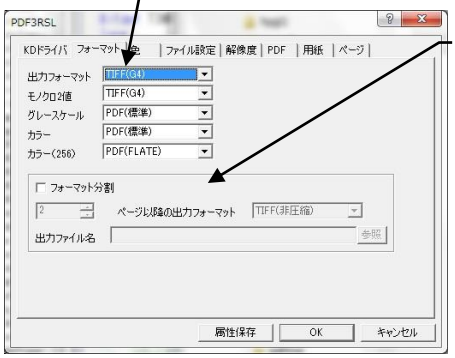
◆操作方法

【GUI 操作基本画面】

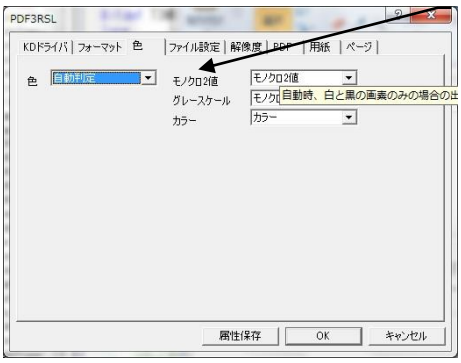
KD ドライバ
KDDriver Long がコンボボックスに設定されています



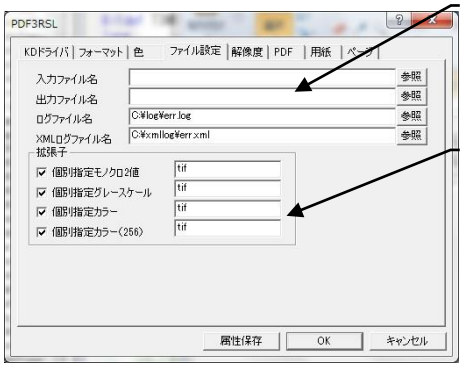
フォーマット
出力するフォーマットを選択します



フォーマット分割
分割するページやフォーマット、ファイル名を指定します

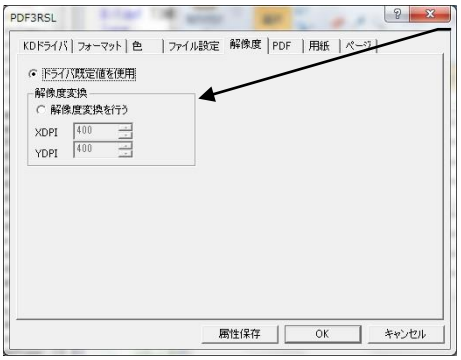


色
モノクロ 2 値
グレイスケール
カラー
カラー(256)
自動判定を選択します

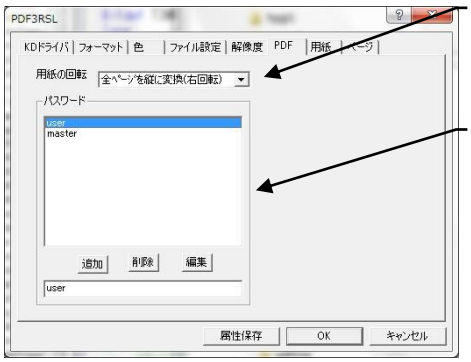


ファイル設定
入出力、ログファイル名を指定します

拡張子
モノクロ 2 値
グレイスケール
カラー
カラー(256)
の拡張子を指定します



解像度
ドライバの規定値、解像度変換を選択します

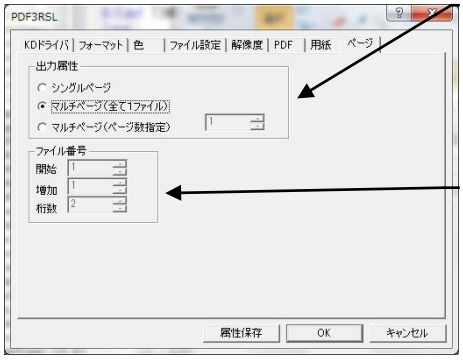


用紙の回転
用紙の回転を指定します

パスワード
PDF ファイルのセキュリティを解除するためのパスワードを指定します

マージン
XY 用紙サイズマージンを指定します

フォーマットオプション
出力フォーマットが tiff の場合、フォーマットオプションを指定できます



出力属性
シングルページ/マルチページ(すべて 1 ファイル)/マルチページ(ページ数指定)出力から選択できます。

ファイル番号
シングルページ/マルチページ(ページ数指定)出力時のファイル番号の設定方法を指定します

【GUI からの操作】
- プログラムを起動すると上記 GUI が表示されます。変換に必要な情報を各項目に設定していきます。
  設定後、実行(OK ボタンを押す)すると変換が開始されます。
  処理が終了すると、設定内容に従った変換結果(ファイル)が出力されます。
- 各項目の情報は保存され次回の変換にそのまま使用することができます。

【コマンドライン基本操作】

コマンドラインからの基本操作は、コマンドプロンプト([プログラム]→[アクセサリ]→[コマンドプロンプト])を起動し、変換する入力ファイル名、出力ファイル名、変換に関する各種設定情報を入力して実行し、変換を行います。

>実行ファイル名　入力ファイル名　-O 出力ファイル名　-各オプション

<基本形の例>　入力ファイル(Sample_file.pdf)を変換して、指定した出力ファイル(raster.tif)に出力。
・コマンドライン入力と画面表示

```
> PDF3RSL sample_file.pdf -Oraster.tif
>
```

(各パラメータについて)

PDF3RSL	:実行ファイル名
sample_file.pdf	:変換元ファイル名
「-O」	:出力ファイルを指定するオプションパラメータ
raster.tif	:出力ファイル名

【PDF3RSL のコマンドラインからの操作における標準仕様】
※必ず以下の項目を確認した上で操作を行うようにしてください。

・変換に関する各種設定(出力フォーマット、シングル/マルチ化、解像度等)は、属性ファイルで指定された内容を使用します。(初期値:drv_in.atr)
属性ファイルを省略する(指定しない)場合、デフォルトとしてカレントディレクトリ(作業フォルダ)の drv_in.atr ファイルが自動的に参照されます。
属性ファイルが存在しない場合、正常に変換が終了しない場合があります。

・PDF3RSL をインストールしたディレクトリで作業する場合、パス名を省略できます。
変換元ファイル（入力ファイル)、出力ファイル、属性ファイル、ログファイルについても同様の扱いとなります。

・絶対パスを指定する場合においてパス名に空白(スペース)がある場合‘”’(ダブルコーテーション)を使用してください。

・「-O」は、マイナス記号とアルファベットの「オー」です。大文字でも小文字でもかまいませんが、全角文字は使えません。また、「-O」と変換後のファイル名の間には空白を入れないようにします。
その他のオプションパラメータについても同様に扱ってください。

・変換に関する各種設定は属性ファイルの他にオプションパラメータを指定します。

・変換前のファイル名と変換後のファイル名に同じ名前を指定することはできません。

・エラー情報や変換状況をカレントディレクトリ(作業フォルダ)に、ログファイル名「err.log」で自動的に出力します。

◆操作例

例 1)絶対パスを使用して任意の変換元ファイル「c:¥test¥infile¥Sample_file2.pdf」を
出力ファイル「c:¥test¥outfile¥raster2.tif」に変換し出力します。

```
> PDF3RSL "c:¥test¥infile¥Sample_file2.pdf" -O"c:¥test¥outfile¥raster2.tif"
>
```

例 2)任意の属性ファイルを使用し Sample_file3.pdf を raster3.tif ファイルに変換し、
任意のログファイルにエラー情報や変換状況を出力します。

```
> PDF3RSL c:¥in¥Sample_file3.pdf -Oc:¥out¥raster3.tif -U"c:¥test¥drv_in.atr" -LOG"c:¥log¥abcd.log"
>
```

(各パラメータについて)
「-U」　：属性ファイルを指定します。(絶対パスを指定)
「-LOG」：ログファイルを指定します。(絶対パスを指定)

例 3)アプリケーションのバージョン情報を出力する。

```
> PDF3RSL -QV -LOGc:¥log¥ver.log
>
```

(各パラメータについて)
「-QV」+「-LOG」　　：指定した VER.LOG にアプリケーションのバージョン情報を書き出します。

例 4)PDF ファイルの情報をファイル出力する。

```
> PDF3RSL c:¥in¥data.pdf -QSc:¥info¥jouhou.txt
>
```

(各パラメータについて)
「-QS」　：指定した jouhou.txt に PDF ファイル「data.pdf」に関する情報を書き出します。

例 5)バッチファイルからの実行。
バッチファイルで記述された内容の処理を実行します。
複数のファイルやフォルダ内のすべてのファイルを一括で変換する場合に使用します。
任意の名称(test.txt)で以下のようにバッチファイルを作成します。
・バッチファイルの内容

```
c:¥test_1¥*.pdf  -Oc:¥out_1¥*.tif  -Uc:¥atr¥drv_in.atr  -LOGc:¥log_1¥err.log
c:¥test_2¥*.pdf  -Oc:¥out_2¥*.tif  -Uc:¥atr¥drv_in.atr  -LOGc:¥log_2¥err.log
c:¥test_3¥*.pdf  -Oc:¥out_3¥*.tif  -Uc:¥atr¥drv_in.atr  -LOGc:¥log_3¥err.log
```

c:¥test_1 に存在する拡張子が pdf のファイルをすべて拡張子を tif に変更したファイル名で変換します。
test_2、test_3 フォルダについても同様の処理になります。
なお、ワイルドカード(*)が指定できるのは、入出力ファイル名のみとなります。

・コマンドライン入力と画面表示

```
> PDF3RSL -BATCHc:¥batch¥test.txt
>
```

(各パラメータについて)
「-BATCH」：フォルダ単位の一括変換を行うために使用します。

【その他の留意点】
※PDF3RSL をインストールしたディレクトリで作業する場合、パス名を省略できます。
(ファイルのパスをカレントパスとします。)
属性ファイルの初期参照にはカレントディレクトリの drv_in.atr が設定されます。

◆変換機能

主だった変換機能として以下の設定を行うことができます。これらの変換機能はGUI(画面)または 属性ファイル(テキスト形式)、オプションパラメータから指定します。

- シングルページ/マルチページ/ページ数指定マルチページ出力指定
- TIFF フォーマットオプション指定
- 入力データの用紙サイズを自動的に判別して出力データへ反映します。
  該当する用紙がない場合、用紙を作成して出力することができます。
- セキュリティの解除機能
- データ回転機能
- ログファイルの出力
- バッチ処理(フォルダ単位の拡張子による一括変換)
- ラスターフォーマット指定
- 解像度指定

◆出力フォーマット

出力対応ラスターフォーマット名一覧表

フォーマット	補足説明
TIFF(非圧縮)	マルチページが可能
TIFF(PackBits)	マルチページが可能
TIFF(G3_1D)	マルチページが可能
TIFF(G3_MH)	マルチページが可能
TIFF(G3_MR)	マルチページが可能
TIFF(G4)	マルチページが可能
TIFF(LZW)	マルチページが可能
TIFF(JPEG)	マルチページが可能、カラーまたは、グレイスケール
TIFF(JPEG:Imaging)	マルチページが可能、カラーまたは、グレイスケール
TIFF(JPEG:Lab)	マルチページが可能、カラーのみ
XWD(非圧縮)	
SunRaster(非圧縮)	
SunRaster(MMR)	モノクロ二値のみ
SunRaster(RLE)	
CALS(G4)	モノクロ二値のみ
FAX(MMR)	モノクロ二値のみ
FAX(MR)	モノクロ二値のみ
FAX(MH)	モノクロ二値のみ
IOCA(非圧縮)	マルチページが可能、モノクロ二値のみ
IOCA(IBM_MMR)	マルチページが可能、モノクロ二値のみ
IOCA(G4)	マルチページが可能、モノクロ二値のみ
BMP(非圧縮)	
EDMICS(MMR)	モノクロ二値のみ
EDMICS(RLC)	モノクロ二値のみ
MIEL(MMR)	モノクロ二値のみ
FX Raster(3 色)	マルチページが可能、モノクロ二値、カラー（黒・赤）
PNG16:PNG	
GIF	
HP-RTL(非圧縮(line))	マルチページ可能
HP-RTL(非圧縮(block))	マルチページ可能
HP-RTL(PackBits)	マルチページ可能
HP-RTL(MH)	マルチページ可能、モノクロ二値
HP-RTL(MR)	マルチページ可能、モノクロ二値
HP-RTL(MMR)	マルチページ可能、モノクロ二値
PDF	マルチページが可能
PDF(FLATE)	マルチページが可能
JPEG	カラーまたは、グレイスケール
SVG(PNG)	マルチページが可能
SVG(JPEG)	マルチページが可能
PostScript(Level1)	マルチページが可能(非圧縮)
PostScript(非圧縮)	マルチページが可能(Level2)
PostScript(RunLength)	マルチページが可能(Level2)
PostScript(G4)	マルチページが可能(Level2)
PostScript(JPEG)	マルチページが可能(Level2)
EPSF	
NON(非圧縮)	

◆制限事項

■管理者権限を持たないユーザーで本製品を使用する可能性がある場合はインストーラに設定されているフォルダにインストールしてください。

■本製品は多重起動(本製品を同時に複数実行)することはできません。

■本製品はログインされた状態で使用してください。ログオフ状態では正常に動作しません。ロック状態であれば動作します。

■本製品はサービス上で実行することはできません。また、サービス上で実行しているアプリケーションからの呼び出しにも未対応です。

■本製品は処理時に"通常使うプリンタ"を変更する場合があります。本製品使用時には印刷処理を行わないようにしてください。

■SJIS で表現できないファイル名には対応しておりません。

■インストールマシン以外のネットワーク上のマシンから、リモート呼び出しによる変換はできません。

■変換(印刷)中に処理を途中でキャンセルすることはできません。また、変換(印刷)中には、他のオペレーション等は行わないでください。処理が止まる、エラーが発生する場合があります。

■ページ番号を指定して変換することはできません。全ページが変換されます。

■本製品の動作中に LOG ファイル等の関連ファイルへのアクセス(参照、コピー等)は行わないでください。

■-O で指定するフォルダは、既存のフォルダを指定してください。

■パラメータに"%"(パーセント記号)は使用できません。

■PDF ファイルのセキュリティ設定を解除するにはパスワードが必要です。

■変換を実行して印刷キューが作成されるが印刷結果が出力されない場合は、KD Driver Long で利用できるメモリーが足りない可能性があります。KD Driver Long の操作説明書の対処方法を参照してください。

■ファイル名フォルダ名は絶対パスで指定してください。相対パスには対応しておりません。

■属性ファイルで指定されている項目をパラメータ指定した場合、パラメータ指定が優先されます。

■PDF3RSL 起動中に、PDF3RSL で使用している KD ドライバを使用しないでください。

■コマンドラインからの実行時に属性ファイル(-U オプション)を指定しなかった場合には、実行時のカレントフォルダ(実行しているフォルダ)に存在する drv_in.atr を自動的に読み込みます。
drv_in.atr が存在しない場合はデフォルト値が与えられます。

■インストールフォルダ下に作業用フォルダを作成しますのでセキュリティが掛かっている場合は解除してください。

■Windows の OS を長時間(数ヶ月単位)再起動せずに使用すると環境により Windows の動作が不安定になる場合があります。
これは、弊社アプリケーションのみの問題ではなく、Windows を含む、利用されるすべてのソフト･ドライバの複合要因であり、このような現象が発生した場合、原因の特定および回避はすべてのアプリケーションが関係するため、対応が不可能です。
長期間連続運用を行う場合、上記の問題が発生することがありますので、定期的に Windows の再起動を奨励致します。

■PDF3RSL が異常終了した場合には、KDdriver_long for Windows の印刷設定の内容と属性ファイル(drv_in.atr)の内容が変わっている可能性がありますので再度実行する場合はファイルの内容を確認してください。
また，アプリケーションがタスク上に残っている場合はタスクマネージャ等で終了させてください。

■PDF3RSL は弊社製品、KDdriver_long を使用しています。ご使用の際には KDdriver_long の注意事項もご一読ください。

■PDF3RSL はカレントディレクトリ以外からの実行は正常に動作しません。

■PDF ファイルの電子署名のデータは変換できません。